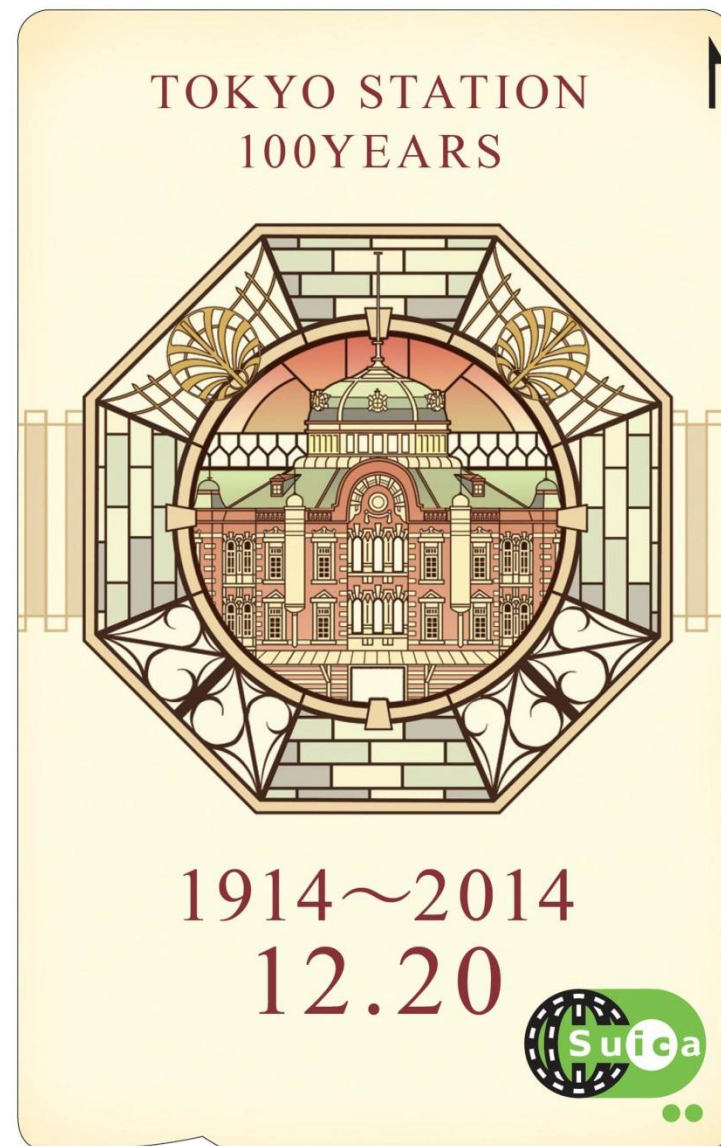


2015年3月期 第2四半期決算説明会

2014年10月29日
東日本旅客鉄道株式会社



I 「グループ経営構想 V ～限りなき前進～」

グループ経営構想 V	4
2017年3月期 数値目標	5
営業キャッシュフローの用途についての計画	6

II 2015年3月期 第2四半期決算及び通期業績予想

単体決算 2015年3月期 第2四半期実績	8
鉄道運輸収入 2015年3月期 第2四半期(累計)実績	9
鉄道運輸収入 2015年3月期計画	10
単体営業費用 2015年3月期 第2四半期実績	11
単体決算 2015年3月期計画	12
連結決算 2015年3月期 第2四半期実績	13
運輸業 実績と計画	14
駅スペース活用事業 実績と計画	15
ショッピング・オフィス事業 実績と計画	16

その他 実績と計画	17
営業外損益・特別損益の実績(連結)	18
連結決算 2015年3月期計画	19
キャッシュ・フローの実績(連結)	20
設備投資の推移(連結)	21
有利子負債残高の推移(連結)	22

III 参考資料

- ・ 2015年3月期 旅客輸送量・鉄道運輸収入 計画
- ・ 津波被害などを受けた沿岸線区の状況
- ・ Suica
- ・ 「ecute」の展開
- ・ ホテル事業の概要
- ・ 主要子会社の実績と計画
- ・ 今後の主なプロジェクト(生活サービス事業)
- ・ 2014年3月期 新幹線・在来線別収支
- ・ トピックス: 田町～品川駅間 新駅設置
- ・ 債券投資家向け追加資料

Ⅰ 「グループ経営構想Ⅴ ～限りなき前進～」

グループ経営構想 V (2012.10.30発表)

～限りなき前進～

変わらぬ使命

究極の安全

サービス品質の改革

地域との連携強化

無限の可能性の追求

技術革新

新たな事業領域への挑戦

企業風土づくり

持続的成長

地域・社会

お客さま

JR東日本
グループ

社員

株主・投資家

コンセプトワード

「地域に生きる。世界に伸びる。」

2017年3月期 数値目標

(単位:億円、%)		2014.3	2015.3	2017.3	2017.3/2014.3	
		実績	計画	目標	増減	(%)
営業収益		27,029	27,410	27,910	+880	103.3
	運輸業	18,274	18,410	18,730	+455	102.5
	駅スペース活用事業	4,009	4,000	4,030	+20	100.5
	ショッピング・オフィス事業	2,510	2,540	2,810	+299	111.9
	その他	2,234	2,460	2,340	+105	104.7
営業利益		4,067	4,070	4,120	+52	101.3
	運輸業	2,673	2,720	2,720	+46	101.7
	駅スペース活用事業	360	340	340	△20	94.3
	ショッピング・オフィス事業	720	730	780	+59	108.2
	その他	326	290	290	△36	88.7
	調整額	△13	△10	△10		

■ 主な前提条件
(2017年3月期までの3か年)

○実質GDP成長率
年率+1.0%程度

○鉄道運輸収入基礎伸び率
定期:年率+0.0%程度
定期外:年率+0.8%程度

※ 今後開業する整備新幹線の影響は含まない

連結ROA (総資産営業利益率) (2017.3期末)

5.4%

連結ROE (自己資本当期純利益率) (2017.3期末)

8.9%

毎年度決算発表時に
新たな3ヵ年計画を発表します。

営業キャッシュフローの使途についての計画

	【将来の目標】 [2015.3-2017.3]	【2015.3期】
連結営業キャッシュフロー	約1.8兆円	
設備投資	[2015.3-2017.3] 約1.6兆円	5,250億円 ※
維持更新投資 (安全・安定輸送投資)	約10,000億円 (約6,500億円)	3,290億円
成長投資	約6,000億円	1,960億円
株主還元	[中長期的ターゲット] 総還元性向33%	配当 120円/株 自社株取得 ※※
債務削減	[2020年代中] 有利子負債残高 3兆円	有利子負債削減 100億円程度

※ これに加えて、2014.3期末の現預金残高より、300億円を上限に重点枠を設定(設備投資合計 約5,550億円)

※※ 2014年5月に約113億円(150万株)の自社株取得を実施(2014年7月に消却)

II 2015年3月期 第2四半期決算及び 通期業績予想

単体決算 2015年3月期 第2四半期実績

(単位:億円)	2013.9 実績	2014.9 実績 [4月計画]	2014.9/2013.9	
			増減	(%)
営業収益	9,751	9,842 [9,800]	+90	100.9
運輸収入	8,603	8,697	+94	101.1
その他の収入	1,148	1,145	△3	99.7
営業費用	7,516	7,582	+65	100.9
人件費	2,380	2,352	△28	98.8
物件費	2,934	3,007	+73	102.5
動力費	332	332	△0	99.8
修繕費	1,005	1,032	+27	102.7
その他	1,596	1,642	+46	102.9
機構借損料等	376	361	△14	96.2
租税公課	455	466	+11	102.4
減価償却費	1,369	1,393	+23	101.7
営業利益	2,235	2,260 [2,150]	+25	101.1
経常利益	1,935	2,050 [1,890]	+114	105.9
四半期純利益	1,302	1,333 [1,250]	+30	102.4

鉄道運輸収入 2015年3月期 第2四半期(累計)実績

(対前年、億円、%)	増減	(%)
鉄道運輸収入	+94	101.1
定期	+12	100.5
定期外	+81	101.3
新幹線	+53	102.2
在来線 関東圏	+31	100.9

(対前年、億円)	要素	増減額
新幹線 (+53)	新幹線高速化など	+20
	インバウンド	+7
	消費税増税による先買い反動	△5
	復興需要	△15
	基礎	+45
在来線 (+28)	前年台風・災害の反動など	+10
	消費税増税による先買い反動	△5
	基礎	+25
定期外収入		+81
定期収入		+12
鉄道運輸収入		+94

鉄道運輸収入 2015年3月期計画

(対前年、億円、%)		通期計画		主な増減要素	基礎トレンド
		上期計画 [上期実績]	下期計画		
鉄道運輸収入		+234億円 101.4%			100.8%
		100.7% [101.1%]	102.1%		
定期		+46億円 101.0%		・見積り方法の変更: +60 ・6箇月定期の増加: △10	100.0%
		99.5% [100.5%]	102.5%		
定期外		+188億円 101.6%			101.2%
		101.1% [101.3%]	102.0%		
新幹線		+107億円 102.2%		・新幹線高速化など: +25 ・インバウンド: +15 ・前年台風・大雪の反動など: +5 ・消費税増税による先買い反動: △10	101.7%
		101.6% [102.2%]	102.8%		
在来線関東圏		+85億円 101.3%		・前年台風・大雪の反動など: +30 ・消費税増税による先買い反動: △10	100.8%
		101.0% [100.9%]	101.6%		

単体営業費用 2015年3月期 第2四半期実績

(単位:億円)	2013.9 実績	2014.9 実績	2014.9/2013.9		実績増減の主な要因
			増減	(%)	
営業費用	7,516	7,582	+65	100.9	
人件費	2,380	2,352	△28	98.8	・退職給付費用: △31 ・賞与関係: +23 ・単価差など
物件費	2,934	3,007	+73	102.5	
動力費	332	332	△0	99.8	
修繕費	1,005	1,032	+27	102.7	・車両修繕費: +14 ・一般修繕費: +13
その他	1,596	1,642	+46	102.9	・部外委託関係: +27 ・販売手数料: +11
機構借損料等	376	361	△14	96.2	・借受終了による減
租税公課	455	466	+11	102.4	・固定資産税等: +12
減価償却費	1,369	1,393	+23	101.7	・設備投資による増

単体決算 2015年3月期計画

(単位:億円)	2014.3 実績	2015.3 4月計画	2015.3/2014.3	
			増減	(%)
営業収益	19,325	19,550	+224	101.2
運輸収入	16,965	17,200	+234	101.4
その他の収入	2,360	2,350	△10	99.5
営業費用	16,047	16,240	+192	101.2
人件費	4,860	4,780	△80	98.3
物件費	6,743	6,920	+176	102.6
動力費	711	720	+8	101.1
修繕費	2,439	2,490	+50	102.1
その他	3,592	3,710	+117	103.3
機構借損料等	747	740	△7	98.9
租税公課	845	850	+4	100.5
減価償却費	2,849	2,950	+100	103.5
営業利益	3,278	3,310	+31	101.0
経常利益	2,639	2,770	+130	105.0
当期純利益	1,698	1,740	+41	102.4

連結決算 2015年3月期 第2四半期実績

(単位:億円)	2013.9 実績	2014.9 実績 [4月計画]	2014.9/2013.9	
			増減	(%)
営業収益	13,452	13,562 [13,500]	+109	100.8
運輸業	9,217	9,280	+63	100.7
駅スペース活用事業	2,009	1,979	△29	98.5
ショッピング・オフィス事業	1,212	1,240	+28	102.3
その他	1,013	1,061	+48	104.8
営業利益	2,595	2,578 [2,420]	△16	99.3
運輸業	1,935	1,966	+30	101.6
駅スペース活用事業	190	178	△12	93.3
ショッピング・オフィス事業	358	364	+6	101.7
その他	97	75	△22	77.0
調整額	13	△5	△18	-
経常利益	2,172	2,209 [1,990]	+37	101.7
四半期純利益	1,357	1,360 [1,230]	+2	100.2

運輸業 実績と計画

(単位:億円)	2013.9	2014.9	2014.9/ 2013.9
営業収益	9,217	9,280	+63 100.7%
営業利益	1,935	1,966	+30 101.6%

2014.3	2015.3計画 [4月計画]	2015.3/ 2014.3
18,274	18,410	+135 100.7%
2,673	2,720	+46 101.7%

2015年3月期 第2四半期 営業収益の主な増減要因

JR東日本	+83	運輸収入の増
総合車両製作所	△19	公民鉄販売減

2015年3月期 トピックス

- ・新潟デスティネーションキャンペーン(4月～6月)
- ・山形デスティネーションキャンペーン(6月～9月)
- ・新幹線E7系(長野新幹線) 車両増備(11編成)
- ・北陸新幹線 金沢開業(2015年3月14日)
- ・上野東京ライン開業(2014年度末)



新幹線E7系

(注) 営業収益:外部顧客への売上高
 営業利益:外部顧客への売上高+セグメント間売上高-外部仕入-セグメント間仕入

駅スペース活用事業 実績と計画

(単位:億円)	2013.9	2014.9	2014.9/ 2013.9
営業収益	2,009	1,979	△29 98.5%
営業利益	190	178	△12 93.3%

2014.3	2015.3計画 [4月計画]	2015.3/ 2014.3
4,009	4,000	△9 99.8%
360	340	△20 94.3%

2015年3月期 第2四半期 営業収益の主な増減要因

JR東日本リテールネット	△10	工事支障閉店、増税反動減
JR東日本東北総合サービス	△6	工事支障閉店、既存店減収
紀ノ國屋	△5	不採算店舗の閉店
JR東日本ウォータービジネス	△5	自販機販売の減

〔参考〕月次の動向（前年同月比 %）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
物販・飲食	97.1	98.5	99.7	98.9	99.6	99.7	98.8
Jリテール(既存店)	96.4	99.2	101.0	97.7	100.2	101.3	99.6
NRE(既存店) (*)	98.4	98.6	101.5	98.7	101.2	101.3	100.0

(注) 営業収益:外部顧客への売上高
営業利益:外部顧客への売上高+セグメント間売上高-外部仕入-セグメント間仕入

(*) NREはホテル事業を除く

ショッピング・オフィス事業 実績と計画

(単位:億円)	2013.9	2014.9	2014.9/ 2013.9
営業収益	1,212	1,240	+28 102.3%
営業利益	358	364	+6 101.7%

2014.3	2015.3計画 [4月計画]	2015.3/ 2014.3
2,510	2,540	+29 101.2%
720	730	+9 101.3%

2015年3月期 第2四半期 営業収益の主な増減要因		
ルミネ	+13	既存店好調
JR東日本ビルディング	+6	オフィスビル増収
アトレ	+4	アトレヴィ大塚開業、既存店好調

2015年3月期 トピックス(斜字は2014.3期開業)
・グランルーフ(2013.9 完成)
・JR大塚南口ビル(2013.9 開業)
・シャル桜木町(2014.7 開業)
・長野駅新駅ビル(2014年度末)

〔参考〕 月次の動向 (前年同月比 %)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
駅ビル	98.1	101.8	99.6	100.2	104.3	104.5	101.4
ルミネ(既存店)	102.0	105.7	100.3	98.8	105.5	107.1	103.2
アトレ(既存店)	98.3	98.9	98.2	101.1	102.9	104.7	100.5

(注) 営業収益:外部顧客への売上高
 営業利益:外部顧客への売上高+セグメント間売上高-外部仕入-セグメント間仕入

その他 実績と計画

(単位:億円)	2013.9	2014.9	2014.9/ 2013.9
営業収益	1,013	1,061	+48 104.8%
営業利益	97	75	△22 77.0%

2014.3	2015.3計画 [4月計画]	2015.3/ 2014.3
2,234	2,460	+225 110.1%
326	290	△36 88.7%

2015年3月期 第2四半期 営業収益の主な増減要因

JR東日本企画	+8	宣伝物製作の増
JR東日本メカトロニクス	+7	ICカード販売の増
ユニオン建設	+5	官公庁向け工事の増
ビューカード	+4	加盟店手数料の増
JR東日本情報システム	+4	システム受託収入の増

ホテル事業 実績(2015年3月期 第2四半期)

営業収益	236億円(99.1%) (セグメント間売上高を含む)
営業利益	17億円(105.4%)

〔参考〕月次の動向（前年同月比 %）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期計
ホテル	98.3	102.1	96.0	99.6	101.9	94.8	99.0

（注）営業収益：外部顧客への売上高

営業利益：外部顧客への売上高＋セグメント間売上高－外部仕入－セグメント間仕入

営業外損益・特別損益の実績(連結)

(単位:億円)	2013.9	2014.9	増減
営業利益	2,595	2,578	△16
営業外収益	57	73	+15
受取利息	0	0	△0
受取配当金	17	21	+3
持分法による投資利益	6	19	+13
その他	32	31	△1
営業外費用	480	442	△38
支払利息	450	418	△31
その他	30	23	△7
経常利益	2,172	2,209	+37
特別利益	170	67	△103
工事負担金等受入額	57	58	+0
災害に伴う受取保険金	96	-	△96
その他	17	8	△8
特別損失	119	155	+36
工事負担金等圧縮額	55	55	+0
減損損失	37	62	+24
その他	26	37	+11
税金等調整前四半期純利益	2,224	2,121	△103

支払利息: 254(△32)
社債利息: 163(+0)

連結決算 2015年3月期計画

(単位:億円)	2014.3 実績	2015.3 4月計画	2015.3/2014.3	
			増減	(%)
営業収益	27,029	27,410	+380	101.4
運輸業	18,274	18,410	+135	100.7
駅スペース活用事業	4,009	4,000	△9	99.8
ショッピング・オフィス事業	2,510	2,540	+29	101.2
その他	2,234	2,460	+225	110.1
営業利益	4,067	4,070	+2	100.1
運輸業	2,673	2,720	+46	101.7
駅スペース活用事業	360	340	△20	94.3
ショッピング・オフィス事業	720	730	+9	101.3
その他	326	290	△36	88.7
調整額	△13	△10	+3	74.2
経常利益	3,325	3,410	+84	102.6
当期純利益	1,999	2,040	+40	102.0

キャッシュ・フローの実績(連結)

(単位:億円)	2013.9	2014.9	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー (Ⅰ)	法人税等の支払額の減少 +281		
	2,269	2,586	+317
投資活動によるキャッシュ・フロー (Ⅱ)	有形及び無形固定資産の取得による支出の増 △161		
	△2,062	△2,327	△265
フリー・キャッシュ・フロー (Ⅰ)+(Ⅱ)	207	259	+52
財務活動によるキャッシュ・フロー (Ⅲ)	有利子負債の調達による収入の減少 △374		
	有利子負債の返済による支出の減少 +805		
	△1,132	△731	+400
現金及び現金同等物の増減額 (Ⅰ)+(Ⅱ)+(Ⅲ)	△925	△472	+452
現金及び現金同等物の期首残高	1,892	1,860	△32
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	△5	△5
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	4	+4
現金及び現金同等物の四半期末残高	967	1,386	+419

設備投資の推移(連結)

(単位:億円)		2011.3 (実績)	2012.3 (実績)	2013.3 (実績)	2014.3 (実績)	2014.9 (実績)	2015.3 (計画)
運輸業	成長投資	479	451	589	859	925	690
	維持更新投資	2,869	2,338	3,162	3,259		3,430
	合計	3,347	2,789	3,751	4,119		4,120
非運輸業	成長投資	854	850	994	1,076	382	1,270
	維持更新投資	56	62	61	61		160
	合計	910	912	1,055	1,137		1,430
	成長投資	1,333	1,301	1,584	1,936	—	1,960
	維持更新投資	2,925	2,400	3,223	3,320	—	3,590
	(減価償却費)	3,664	3,587	3,468	3,480	1,693	3,600
合計		4,258	3,701	4,807	5,257 ^(※)	1,308	5,550 ^(※)

(注) 維持更新投資＝事業の継続的運営に必要な投資

※ 重点枠を含む (2014.3期実績:147億円)

(2015.3期計画:300億円)

有利子負債残高の推移(連結)

(単位:億円)		2010.3 (実績)	2011.3 (実績)	2012.3 (実績)	2013.3 (実績)	2014.3 (実績)	2014.9 (実績)
	社債	14,895 (2.02%)	15,600 (1.98%)	15,996 (1.97%)	16,597 (1.94%)	17,197 (1.90%)	17,248 (1.88%)
	長期借入金	7,193 (2.05%)	7,616 (1.92%)	8,159 (1.75%)	8,537 (1.57%)	8,998 (1.43%)	9,177 (1.39%)
	鉄道施設購入 長期未払金	11,777 (5.35%)	10,484 (5.40%)	9,238 (5.49%)	7,932 (5.63%)	6,664 (5.78%)	6,154 (5.84%)
	その他 有利子負債	83 (1.10%)	628 (0.16%)	7 (0.82%)	8 (0.76%)	23 (1.27%)	2 (0.74%)
合計		33,949 (3.18%)	34,330 (2.98%)	33,402 (2.89%)	33,074 (2.73%)	32,884 (2.56%)	32,583 (2.49%)

上段：残高
下段：平均金利

III 参考資料

2015年3月期 旅客輸送量・鉄道運輸収入 計画

			旅客輸送量（百万人キ口）				鉄道運輸収入（億円）			
			2014.3 実績	2015.3 計画	増減	(%)	2014.3 実績	2015.3 計画	増減	(%)
新幹線		定期	1,731	1,697	△33	98.0	228	231	+3	101.4
		定期外	19,131	19,325	+194	101.0	4,843	4,951	+107	102.2
		計	20,863	21,023	+160	100.8	5,071	5,182	+110	102.2
在来線	関東圏	定期	69,670	68,325	△1,344	98.1	4,392	4,434	+41	100.9
		定期外	34,554	34,890	+335	101.0	6,760	6,845	+85	101.3
		計	104,225	103,216	△1,009	99.0	11,153	11,280	+127	101.1
	その他	定期	3,225	3,143	△81	97.5	186	187	+1	100.8
		定期外	2,796	2,763	△33	98.8	552	548	△4	99.1
		計	6,022	5,907	△114	98.1	739	736	△3	99.6
	在来線 合計	定期	72,896	71,469	△1,426	98.0	4,579	4,622	+43	100.9
		定期外	37,351	37,653	+302	100.8	7,313	7,393	+80	101.1
		計	110,247	109,123	△1,124	99.0	11,892	12,016	+123	101.0
合計		定期	74,628	73,167	△1,460	98.0	4,807	4,854	+46	101.0
		定期外	56,482	56,979	+496	100.9	12,156	12,345	+188	101.6
		計	131,110	130,147	△963	99.3	16,964	17,199	+234	101.4



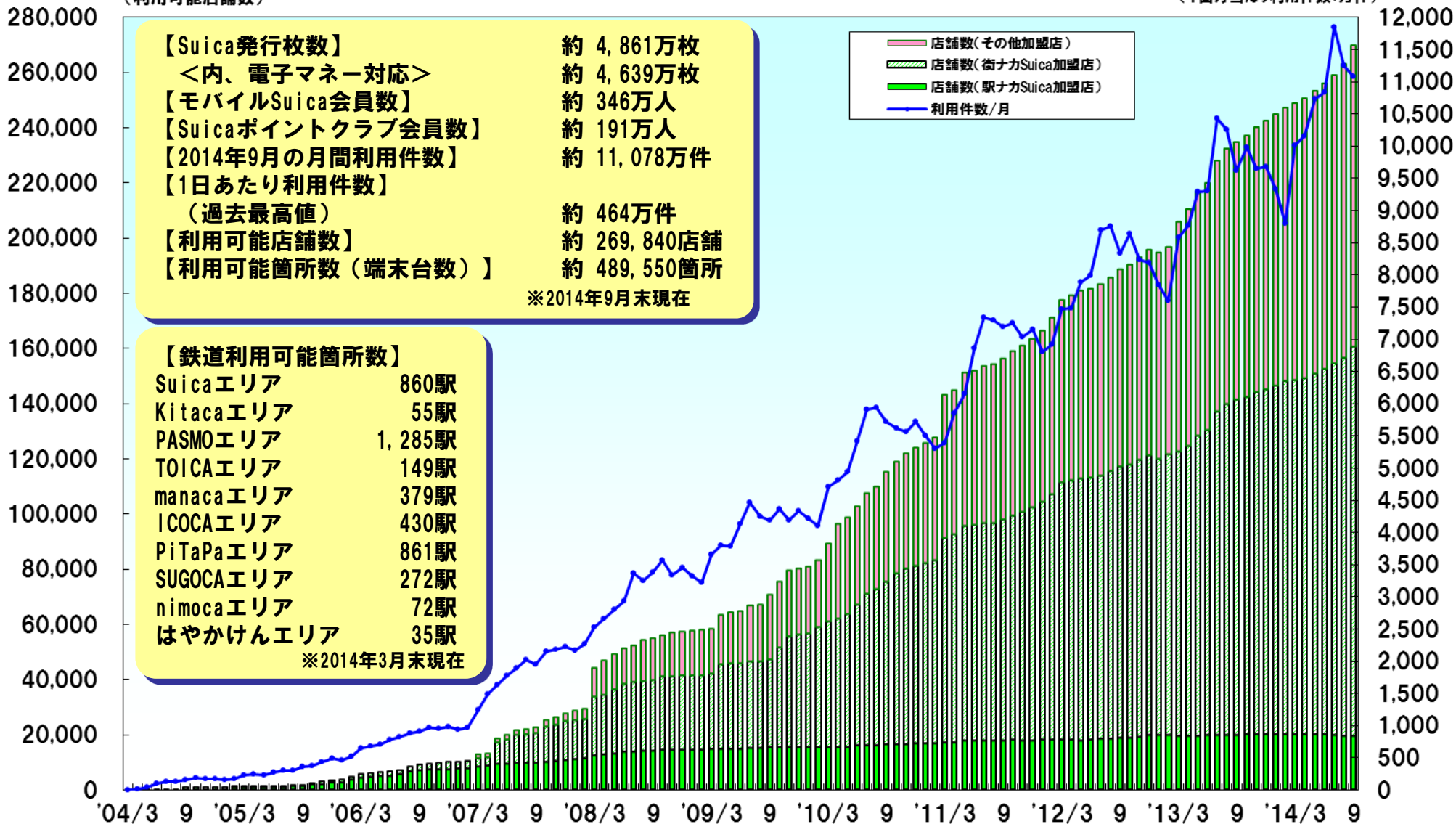
(※2014年10月28日現在)

交通系電子マネー利用件数および利用可能店舗数の推移

※ 数値はその他加盟店実績含む

(利用可能店舗数)

(1箇月当たり利用件数:万件)



	大宮	品川	立川	日暮里	東京	上野	品川 サウス	赤羽
開業	2005.3	2005.10	2007.10 (1期) 2008.10 (2期)	2008.3 2009.6(増床)	2010.3	2010.12 (1期) 2011.3 (2期)	2010.12 (1期) 2011.2 (2期) 2011.4 (3期) 2011.5 (4期)	2011.3 (1期) 2011.7 (2期) 2011.8 (3期) 2011.9 (4期)
売場 面積	約2,300㎡	約1,600㎡	約4,300㎡	約380㎡	約730㎡	約4,800㎡	約1,800㎡	約1,600㎡
店舗数	78	52	90	18	32	76	39	53
店舗売上 2014.9 (対前年%)	47億円 (98.3%)	31億円 (105.5%)	28億円 (100.9%)	8億円 (98.4%)	22億円 (110.1%)	54億円 (103.0%)	51億円 (105.4%)	25億円 (104.9%)

ホテル事業の概要

■ メトロポリタンホテルズ(10ホテル、3,028室)

ホテルメトロポリタン(池袋)、エドモント(飯田橋)、高崎、長野、仙台、盛岡、盛岡ニューウイング、秋田、山形、丸の内

営業収益* 159億円(2014.9) 稼働率 82.7%

■ ホテルメッツ(23ホテル、2,683室)

久米川、武蔵境、国分寺、浦和、水戸、川崎、田端、津田沼、北上、長岡、溝ノ口(武蔵溝ノ口)、渋谷、かまくら大船(大船)、八戸、目白、赤羽、福島、高円寺、立川、駒込、横浜鶴見(鶴見)、ホテル アール・メッツ宇都宮、新潟

営業収益* 43億円(2014.9) 稼働率 84.3%

■ 東京ステーションホテル (150室)

■ ファミリーオ、フォルクローロ (8ホテル、249室)

■ ホテルドリームゲート舞浜 (80室)

■ シーサイドホテル 芝弥生 (155室)

■ ホテルニューグランド (249室)

* 各ホテルの営業収益の単純合算
(2014年9月30日現在)

主要子会社の実績と計画

(単位:億円)		2013.9 実績	2014.9 実績	2014.9/ 2013.9	2015.3 計画	2015.3/ 2014.3
JR東日本 リテールネット (Jリテール)	営業収益	1,014	985	97.2%	1,984	98.1%
	営業利益	28	18	66.8%	27	63.5%
日本レストラン エンタプライズ (NRE)	営業収益	305	304	99.7%	610	99.6%
	営業利益	7	9	115.7%	14	103.4%
ルミネ	営業収益	305	319	104.5%	670	102.1%
	営業利益	55	57	102.5%	132	105.2%
JR東日本企画	営業収益	453	461	101.8%	1,033	101.3%
	営業利益	9	8	95.2%	22	75.5%

* 単体での営業収益・営業利益

今後の主なプロジェクト(生活サービス事業)

	開業時期	延床面積(㎡)			
			オフィス(㎡)	商業施設(㎡)	ホテル(室)
新宿駅新南口ビル(仮称)	2016年春	約111,000	約77,200	約9,400	-
千葉駅駅舎・駅ビル建替	2018年春 (全面開業)	約73,800	-	約57,400	-
仙台駅東口開発	2016年春	約43,000	-	約41,000	-
	2017年春	約14,000	-	-	約280
渋谷駅開発(共同開発)	(東棟)2020年 (中央・西棟)2027年	約270,000	(賃貸面積) 約70,000	(店舗面積) 約70,000	-
		うち 東棟 約174,000	うち 東棟 約70,000	うち 東棟 約30,000	
横浜駅西口駅ビル計画(仮称)	2020年	約118,000	約28,000	約66,000	-
品川開発プロジェクト	創出用地 約130,000㎡				

2014年3月期 新幹線・在来線別収支

(単位:億円)		新幹線			在来線		
		2013.3	2014.3	比率 (%)	2013.3	2014.3	比率 (%)
営業キロ[キロ]		1,134	1,134	100.0	6,377	6,377	100.0
輸送人キロ[百万人キロ]		20,118	20,863	103.7	108,275	110,247	101.8
鉄道事業営業収益	A	5,025	5,185	103.2	13,094	13,121	100.2
鉄道事業営業費用		3,148	3,254	103.4	12,113	12,145	100.3
鉄道事業営業損益	B	1,876	1,930	102.9	980	976	99.5
鉄道事業固定資産	C	20,520	20,739	101.1	24,430	25,019	102.4
鉄道事業減価償却費		811	843	104.0	1,890	1,879	99.4
B/A		37.3%	37.2%	-	7.5%	7.4%	-
B/C		9.1%	9.3%	-	4.0%	3.9%	-

トピックス：田町～品川駅間 新駅設置

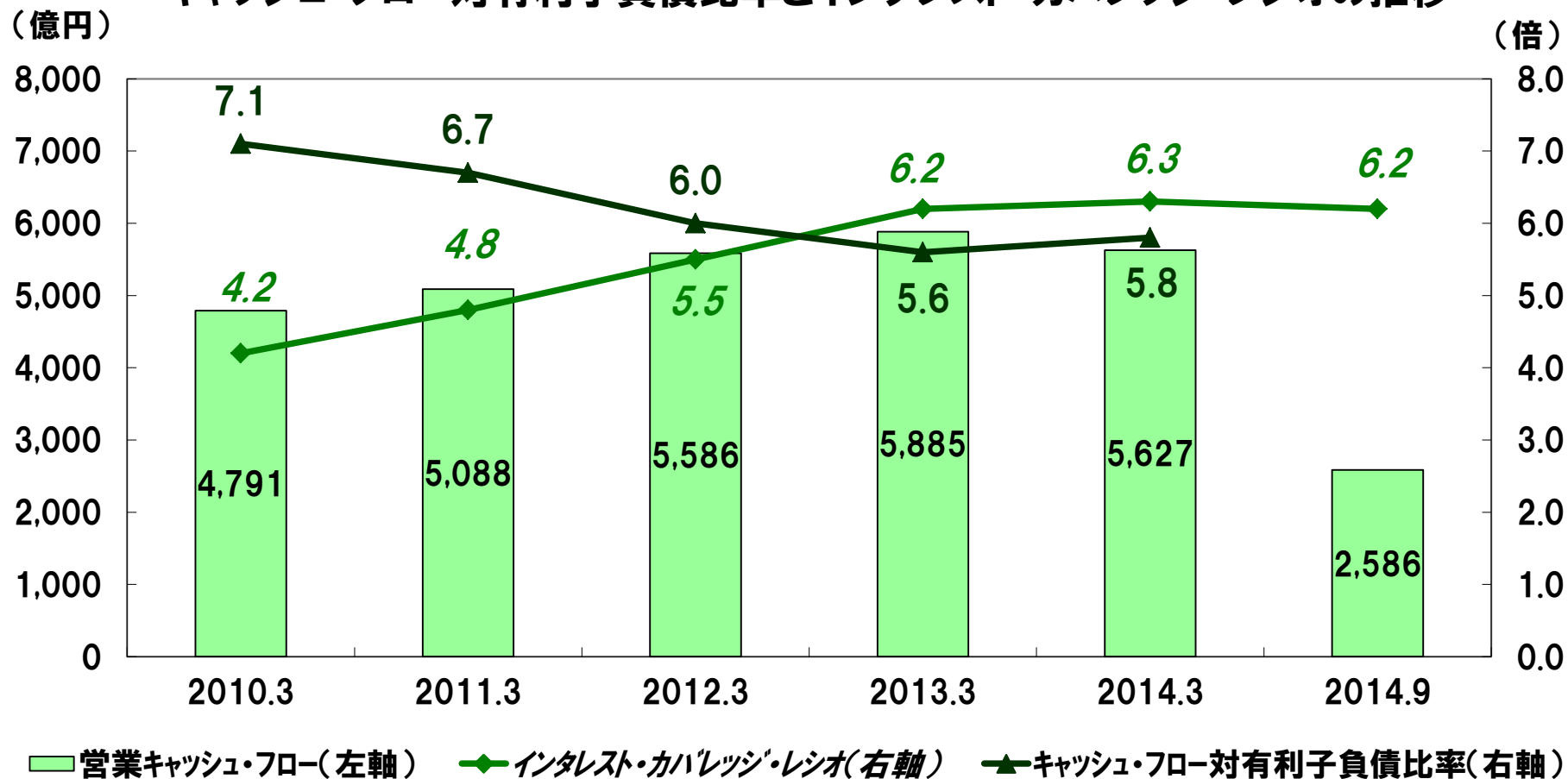


財務指標の動向(1)

債券投資家向け追加資料



キャッシュ・フロー対有利子負債比率とインタレスト・カバレッジ・レシオの推移



(注1) インタレスト・カバレッジ・レシオ＝営業キャッシュ・フロー／利息の支払額

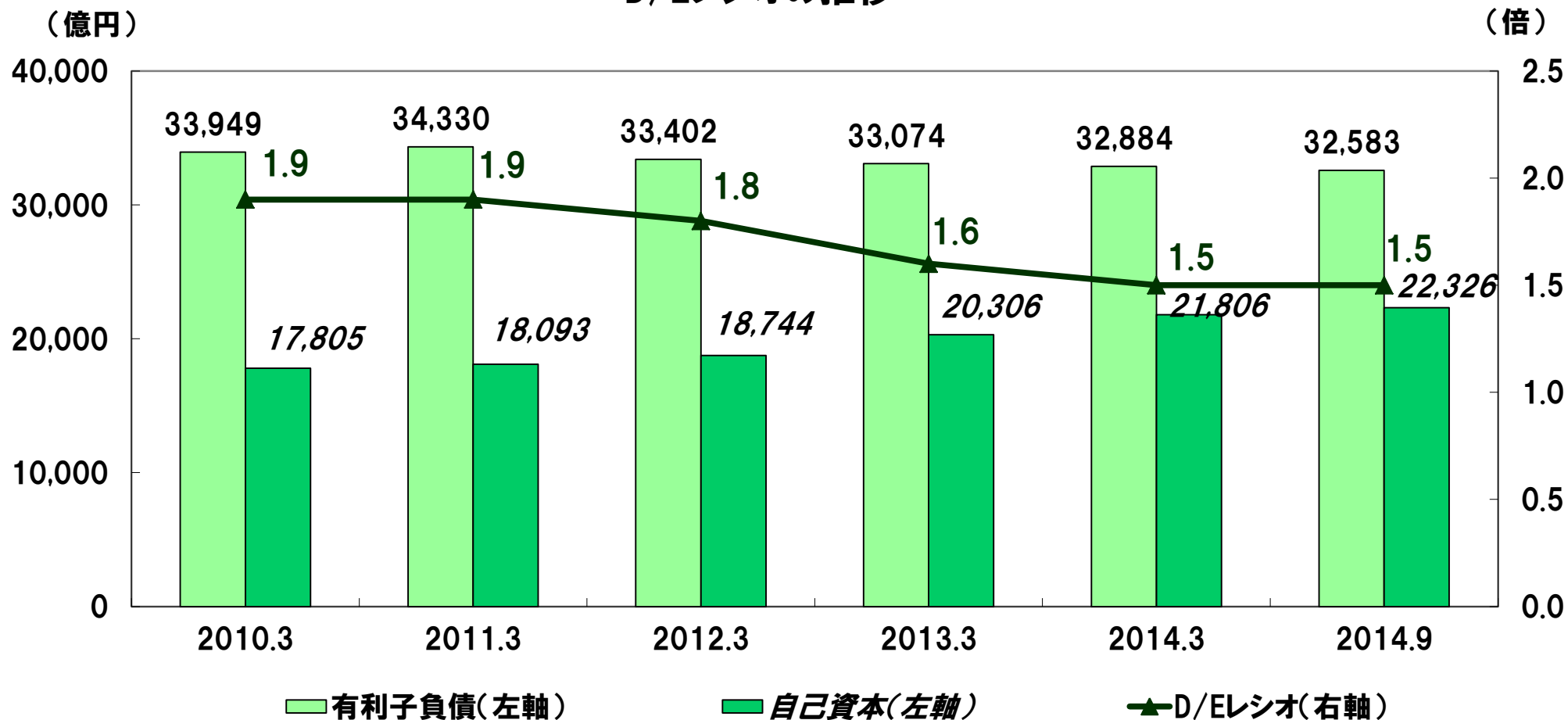
(注2) キャッシュ・フロー対有利子負債比率＝有利子負債／営業キャッシュ・フロー

財務指標の動向(2)

債券投資家向け追加資料



D/Eレシオの推移



(注) D/Eレシオ=有利子負債／自己資本

有利子負債の構成

債券投資家向け追加資料



連結有利子負債の内訳(2014年9月末)

	残高 (億円)	構成比	平均金利	平均年限
社債	17,248	52.9%	1.88%	10.01年
長期借入金	9,177	28.2%	1.39%	6.49年
鉄道施設購入長期未払金	6,154	18.9%	5.84%	14.63年
その他有利子負債	2	0.0%	0.74%	0.14年
合計	32,583	100.0%	2.49%	9.89年

鉄道施設購入長期未払金の内訳(2014年9月末)

債務の名称	買取時元本 (億円)	未払残高 (億円)	金利		支払方法	支払期間	支払先(注2)における用途
			変動/固定	利率			
1号債務(注1)	21,018	1,484	変動	4.13%	元利均等	1991.10~2017.3	同機構が負担する債務の償還資金
2号債務(注1)	6,385	1,159	固定	6.35%	元利均等	1991.10~2017.3	在来線の整備等
3号債務(注1)	3,665	3,399	固定	6.55%	元利均等	1991.10~2051.9	整備新幹線
新幹線債務合計	31,069	6,042		5.92%			
秋田新幹線債務	279	85	変動	1.67%	元利均等	1997.3~2022.3	
モノレール債務	367	26	変動	2.84%	元利均等	(2002.3)~2029.11	
総計		6,154		5.84%			

(注1)「新幹線鉄道に係る鉄道施設の譲渡等に関する法律施行令」第1条の、それぞれ第1号、2号、3号に規定されていることによる通称

(注2)独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構

■長期資金調達

- 長期・固定金利での調達と債務償還の平準化により、金利上昇リスクを抑制
- 長期格付け

格付機関名	格付け
ムーディーズ	Aa2（安定的）
スタンダード＆プアーズ（S&P）	AA-（安定的）
格付投資情報センター（R&I）	AA+（安定的）

■流動性

- 日々、鉄道事業から現金収入（2014年3月期の1日当たりの運輸収入は約50億円）
- CP発行枠 1,500億円
- 短期格付け

格付機関名	格付け
ムーディーズ	P-1
格付投資情報センター（R&I）	a-1+

- 当座借越枠 3,300億円

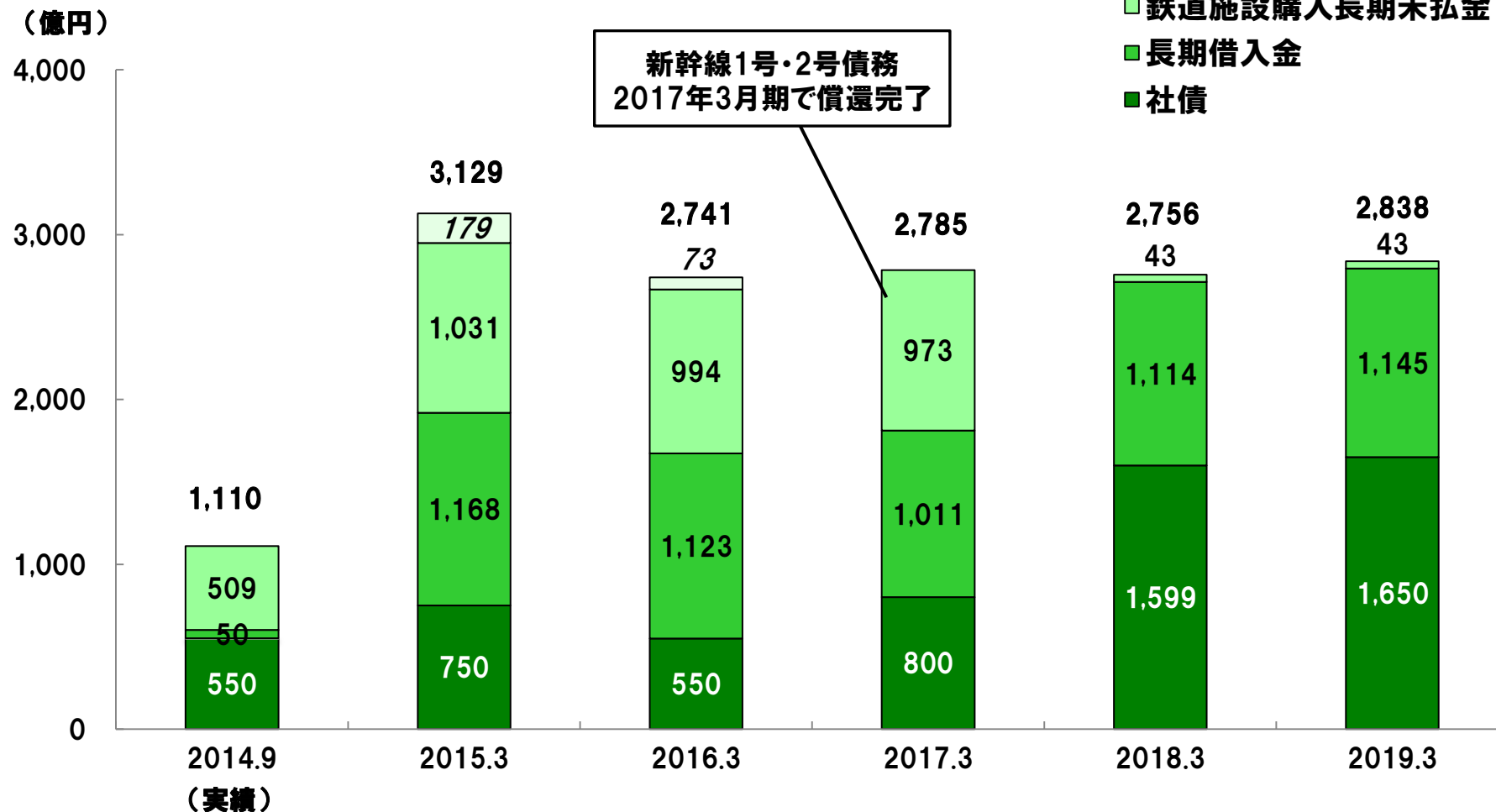
有利子負債の償還見込み

債券投資家向け追加資料



有利子負債償還額(連結、短期除く)

- 新幹線1号債務の早期償還
- 鉄道施設購入長期未払金
- 長期借入金
- 社債



(注1) 見込額は2014年9月30日現在

(注2) 新幹線1号債務の早期償還額は予定額

(注3) 社債に関する償還額は額面金額

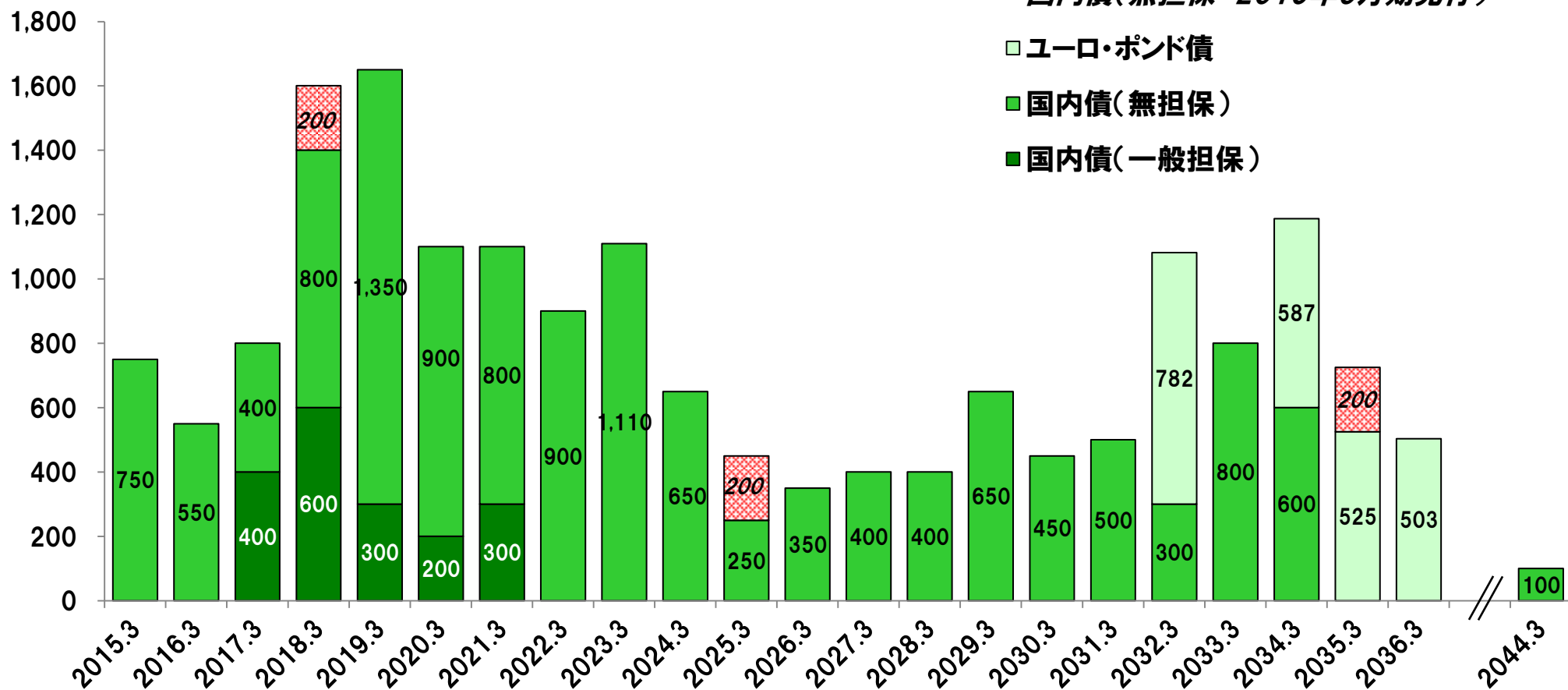
社債の償還見込み

債券投資家向け追加資料



社債償還額(単体)

(億円)



(注1) 2014年9月30日現在

(注2) 償還額は額面金額

2015年3月期の社債発行実績

債券投資家向け追加資料



回号	年限	発行総額	クーポン	発行価格	応募者 利回り	JGB スプレッド	発行日	償還日
101	3	200億円	0.126%	100円	0.126%	+4bp	2014.7.25	2017.7.25
102	10	200億円	0.630%	100円	0.630%	+7bp	2014.7.25	2024.7.25
103	20	200億円	1.502%	100円	1.502%	+7bp	2014.7.25	2034.7.25

**本資料および説明会プレゼンテーション映像は
弊社ホームページでご覧いただけます**

**JR東日本ホームページ
「企業情報・IR情報・採用情報」→「IR情報」→「決算説明会」
<http://www.jreast.co.jp/investor/guide/index.html>**

将来の見通しの記述について

このレポートに記載されているJR東日本グループの現在の計画、戦略、確信などのうち、過去の事実以外のものはJR東日本グループの将来の業績に関する見通しの記述であり、現在入手可能な情報に基づく経営陣の仮定と確信に基づくものであります。これらの将来見通しの記述は、既に知られているリスク、知られていないリスクや不確かさ、その他の要因などを含み、JR東日本グループの実際の経営成績、業績などはこのレポートに記載した見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には以下のようなものなどが含まれます。

①鉄道事業の現在の利用者数を維持または増加させるJR東日本グループの能力、②鉄道事業その他の事業の収益性を改善するJR東日本グループの能力、③鉄道事業以外の事業を拡大するJR東日本グループの能力、④日本全体の経済情勢や法規制、日本政府の政策など。